

おだわらを拓くカニューズレター Powers!

パワーズ

2012.1.15発行

第28号

発行責任者:二宮秀夫

小田原市栄町2-13-1
そびそ二宮ビル2F

おだわらを拓く力

「新しい小田原」へ、次なる一歩を!

2011年は、新総合計画「おだわらTRYプラン」がスタートすると共に、東日本大震災という国難に直面した、大きな節目の年となりました。これまでも小田原市は、真に持続可能な市民自治のまち、そして本当の豊かさや安心、そして小田原に暮らすことの幸せを、市民誰もが感じられるまちづくりを進めてきましたが、震災を通じた様々な経験や学びは、その進む方針に誤りがないこと、そして更に、それをより徹底して行わねばならないことを私たちに教えてくれました。

幸いにして、小田原の豊かな地域資源と限りない市民力が、今まさに無尽蔵の力を発揮し始めています。地域コミュニティ単位での様々な支え合いの取り組み、経済振興に向けた交流人口拡大の取り組み、「いのちを守る地域自給圏」の形成に向けた環境保全やエネルギー自給への取り組み、津波避難計画づくりに象徴される地域住民の皆さんの行動力……。まさに、将来都市像に掲げた「市民の力で未来を拓く希望のまち」が具現されつつあります。「自治基本条例」が1月1日に施行となり、新総合計画と併せ「新しい小田原」を作るための枠組みも整いました。

2012年、辰年。市民の皆さんから託された現在の市長任期も、残すところ4ヵ月となりました。全力を挙げてマニフェストの成果化に向かうと共に、市政の次なるステージへ向け、市民力と協働によるまちづくりに全力を傾けて参ります。

小田原市長 加藤 憲一



HOT NEWS 市町村では初!

環境省の事業化検討業務に採択 エネルギーも 地域自給で

環境省の「平成23年度地域主導型再生エネルギー事業化検討業務」に小田原市が採択されました。県では高知県、市町村では小田原市だけです。(詳細は4ページ)

希望のまちへ
みんなの
ひとこと



●東日本大震災が他人事とは思えないのは、小田原市民すべての気持ちなのではないのでしょうか？私は、ご近所の方たちに声をかけることから始めています。地域の絆の大切さを被災したみなさんから受け継ぎたいものです。(国府津・K)

●昨年の市議会議員選挙で女性が増えたこと、世代交代が進んだことは、とてもよいニュースでした。議会には足を運ばませんが、後日ネットで聞いています。暮らしの立場から主婦も若い人も意見が言えるようになるといいですね。(本町・Y)

写真で振り返る 加藤市長の1年



1/26 久野小親子ふれあい活動で餅つきに参加



2/26 現場訪問(いろりクラブ)



3/8 上府中地区ケアタウンモデル事業関係者との懇談



4/9 東日本大震災復興支援コンサート

チェンジ 続行中

励み、儉約し、努力して
加藤市長の1335日

たくさんの市民の後押しを受けて、市政の目標を「持続可能な地域づくり」に舵を切った加藤市長の3年8カ月。時代の曲がり角にあって一直線にはチェンジはできませんが、その掲げる目標は一点も変わりません。小さなことからコツコツと積み上げていく、この姿勢こそ大切にしたいものです。



12/5 市民と市長の地域活動懇親会(豊川地区)



待ったなし! 災害に強いまちづくり

上下水道幹線の総点検、全小中学校の耐震工事完了、狭い道路の幅を広げるなど、着実に安全な町へ進めてきました。
更に、東日本大震災の教訓を活かし、まず**海拔マップ**を作成。津波被害の心配のある地域の方が**避難できるビル53棟**(2011.12現在、5万人収容)を確保しました。



避難ビルの一つになっている市民会館



未来へ! 子育て支援次々に

子育ての相談にのったり、親子が自由に遊んだり、おしゃべりできる子育て支援センター「**おだびよ**」が、**小田原駅西口近くにオープン**しました。また、閉鎖の予定だった「**おおとり保育園**」を市が取得し、0歳児、1歳児も受け入れる認可保育所として、今春オープン。子育ての環境を一步步つづえています。



おだびよ



情報公開が進みました

昨年からはホームページが新しくなり、見やすいと評判です。放射能情報、施設情報、さまざまな地図情報、市民意見の募集など、暮らしに直結する情報が掲載されています。
市長が専門家から授業を受けるときに、**公開の場で市民と共に勉強する公開アドバイザリー**を実施しました。今までに、エネルギー政策(2011.7.14ラスカ)、子どもにやさしいまちづくり(2011.10.30地下街)、などが行われました。



市の借金を減らしました

2007年度末は約1500億円の借金が、2010年度末には約1300億円に。加藤市政**3年間で約200億円の借金を減らしました**。赤ちゃんからお年寄りまでの一人当たり75万円にあたる借金が10万円減り、65万円となりました。また、事業仕分けに基づいて、公共施設の運営管理を民間に委託してコストダウンに努めています。



6/19 城下町おだわらクリーン作戦「落書き落とし」



8/27 広域避難所運営宿泊体験訓練視察



9/22 パティシエ鎌塚さんと(清閑亭)



11/6 サボセンまつり



12/3 久野友の会 ふれあいフェスティバル

やってみよう! 食べ物とエネルギーを自分たちでつくること~

片浦・食とエネルギーの地産地消プロジェクト

小田原市根府川にある廃校になった旧片浦中学校で自然エネルギー設備製作や循環型体験農園体験ワークショップを展開し、持続可能な暮らしや地域づくりを提案していくプロジェクトです。

これはNPO等、行政及び企業など多様な担い手が協働して自分たちの地域における様々な課題解決にあたる取り組みを試行する『神奈川県新しい公共の場づくりのためのモデル事業』の一つで、小田原市教育委員会とNPO法人子どもと生活文化協会を中心に実行委員会を立ち上げ運営にあたっています。東日本大震災以降、食やエネ

ギーの安全を強く感じる今こそ、未来に向けて人々がつながりあって、新しいコミュニティづくりをしていきたいと願っています。今後太陽光パネル、太陽温水設備製作ワークショップ等予定。

☎: 080-4612-8420

kataura55sep@gmail.com

(きやま)

ブログかたうら日和

<http://k-carpenters.blogspot.com/>



太陽光発電を中心とした

再生可能エネルギーの事業化へ

震災後、計画停電の苦い経験と、浜岡原発から約120キロの距離にあることから、再生エネルギーの拡大による、原発に依存しない地域づくりをめざし、昨年7月にNPO法人環境エネルギー政策研究所の飯田哲也所長を行政戦略アドバイザーに任命。電力の地域自給の研究に着手しました。

10月に環境省の「地域主導型再生可能エネルギー事業化検討業務」に認定され、作業を本格化。この度、太陽光発電を中心とした再生エネルギーの自給体制の構築を実現する官民協議会が設置され、12月に初会合が開かれました。市、県の担当者、商工、金融などの事業者、学識経験者ら13人で組織された協議会の名称は、「小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会」。1月中旬に市民意見交換会を行い、事業化の目的や具体的な手法について説明する予定。2013年に、市民に出資を募り、太陽光発電を対象にした、民間主導による事業会社の設立を予定しています。

「いのちを守る小田原」へ

市の地域防災計画 見直し作業進む

地震や津波、台風や火山の噴火などの災害への対応から復興策までの骨組みを定める「地域防災計画」の見直しを、現在、小田原市は進めており、昨年12月まずはその素案を発表しました。1月13日まで募集していた市民からの意見や、災害時相互応援協定を締結した福島県相馬市の実体験に基づくアドバイスなども取り入れながら、3月末までの策定を目指し、急ピッチで作業を進めています。

津波対策では県の想定よりも高い最大浸水深10mの津波を前提に、海拔の低い広域避難所の見直しや一時避難場所として民間ビル等を利用できるようにする協定先を拡げる作業もしており、それらを踏まえたより具体的な防災計画・マニュアルも同時に作り、地域防災計画に肉付けしていきます。なお、地域防災計画(素案)は市のホームページ等で確認できます。

「市長の日記」毎日更新中!

小田原市

検索

市長室

小田原市議会

小田原市議会

検索

POWERS! 敬白

わたしたちは、たいへんな時代に遭遇してしまいました。今こそ、自然の理に学ぶこと。これが一番大切なことなのだと自分に言い聞かせています。

なにはともあれ、今年は無事な1年でありませうように。

「おだわらを拓く力」は、カンパとボランティアで運営している団体です。
ただ今、会員・ボランティアスタッフ募集中!

発行・連絡先: おだわらを拓く力(加藤けんいち後援会) 会長: 二宮秀夫

〒250-0011 小田原市栄町 2-13-1 そびそ二宮ビル 2F TEL 0465-21-5260
オープン時間: 月・水・金(祝日をのぞく) 10時~17時 FAX0465-21-5261

「おだわらを拓く力」ホームページはこちらから。加藤市長の日記も読めます。

拓く力

検索

